



# 境港の現状

境港をみてみよう！



## 1 境港市の概略

### (1) 位置

境港市は、鳥取県の北西端に形成された砂州である弓浜半島の北端に位置し、西側は島根県宍道湖に接続する汽水域である中海、北側は斐伊川水系の末端である境水道を挟んで島根半島、東側は日本海的美保湾に接しており、その地形は標高2m程度の平坦な砂地である。



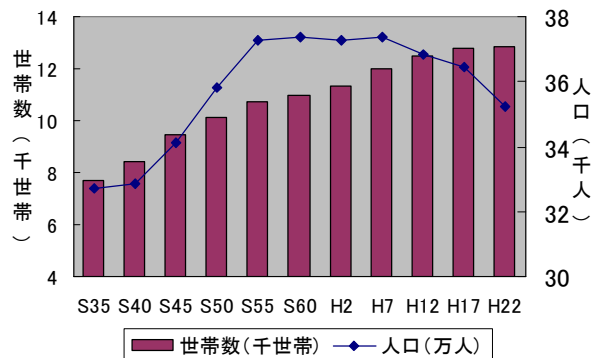
### (2) 人口

境港市の世帯数は12,870世帯、人口は35,259人（平成22年国勢調査）と世帯数は増加しているが人口は減少傾向にあり、核家族化及び少子高齢社会に対応した取り組みが急がれている。

人口の推移(該当年の10月1日現在)

年次	世帯数	人口(人)		1世帯あたりの人数	
		男(人)	女(人)		
昭和35年	7,683	32,714	15,537	17,177	4.3
昭和40年	8,445	32,846	15,768	17,078	3.9
昭和45年	9,440	34,145	16,342	17,803	3.6
昭和50年	10,149	35,819	17,121	18,698	3.5
昭和55年	10,753	37,278	17,889	19,389	3.5
昭和60年	10,978	37,351	17,873	19,478	3.4
平成2年	11,308	37,282	17,880	19,402	3.3
平成7年	11,995	37,365	18,034	19,331	3.1
平成12年	12,505	36,843	17,756	19,087	2.9
平成17年	12,798	36,459	17,535	18,924	2.8
平成22年	12,870	35,259	16,906	18,353	2.7

(資料:国勢調査)



### (3) 産業

平成22年に実施された国勢調査によると、境港市の就業人口16,709人のうち第1次産業従事者が700人、うち水産業310人、農業383人となっている。また、水産業と農業の生産金額を比較すると、平成18年において水産物水揚額19,108百万円、農業産出額1,060百万円であり、水産業の比率が圧倒的に高い。

境港市の工業出荷額に占める水産製造関係の割合

産業別	事業所数	従業者数	出荷額(万円)
食料品	53	2,127	4,160,072
(構成比率)	(44.0%)	(44.7%)	(45.5%)
内、水産製造関係	37	1,366	2,944,204
飲料・飼料等	5	118	414,246
繊維	3	25	5,733
木材	1	177	x
プラスチック	2	76	x
窯業・土石	3	28	52,707
金属	6	72	111,982
生産用機械	2	15	x
その他	9	421	720,013
総数	84	3,059	6,463,970

(平成22年工業統計調査・従業者4人以上の事業所対象)

また、平成22年工業統計調査によると、境港市の事業所総数は84社、従業員数は3,059人で、そのうち水産製造関係の事業所数は37社、従業員数は1,366人と、従業者全体の約45%が水産製造関係の事業所に従事している。

### (4) 観光

平成4年度から境港市出身の漫画家水木しげるにちなんだ「水木しげるロード」の整備が始まり、水木しげる記念館の開館や妖怪ブロンズ像の設置等、「妖怪ワールド」は目覚ましい発展を続け、平成22年の水木しげるロードへの観光客入り込み数は、370万人を突破し、全国的な観光都市として成長している。

水木しげるロード観光客入り込み数

(単位:千人)

区分	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
人数	927	1,478	1,722	1,575	3,724	3,221

(資料:通商観光課)

### (5) 交通

境港市は、鉄道や利便性の高い幹線道路が整備されているとともに、重点港湾である境港（さかいこう）、米子鬼太郎空港を有している。

鉄道は、山陰初の鉄道として、明治35年に境港―御来屋間にひかれ、かつては貨車が走り、境港発京阪神、東京、岡山方面の急送品輸送列車や境港・東京間を走る鮮魚専用の特急貨物列車「山陰トビウオ号」が運行されたり、漁港（現在の栄町界限）までの引き込み線が整備される等、境港市の物流を大きく支えてきた。トラック輸送の発達により貨物輸送は衰退し、現在、JR境線は、各駅に妖怪からとられた愛称がつけられ、妖怪列車が走る等、境港市の観光の大きな役割を果たしている。

現在の物流の主役である道路網は、境港から中国縦貫自動車道まで、国道431号線、米子自動車道が連結し、大阪へ約4時間、東京へ約10時間でのアクセスが可能である。また、岡山自動車道の開通により、山陰～山陽～四国を結ぶ西日本中央連携軸が実現し、これまでの関西方面への流通に加え、山陽や四国方面の太平洋側まで含めたルートが開かれた。周辺地域への道路網としては、昭和47年に境港市と島根県松江市美保関町を結ぶ境水道大橋（おさかな大橋）が開通し、水産物流通の効率化、人材の交流、周辺地域の発展に大きく寄与している。境港市と松江市八束町の江島とを結ぶ江島大橋、中海淡水化事業により設置された松江市八束町入江から松江市大海崎に至る大海崎堤防道路により、自動車でも中海を渡ることができるようになり、境港市から松江市までの最短コースとして利用されている。これらの交通網の整備が境漁港並びに境港の水産加工団地の発達を大きく支えてきた。

また、米子鬼太郎空港には、東京便（全日空）が1日に5便往復しているほか、山陰唯一の定期国際航路として韓国ソウル便（アジアナ航空）が週に3便往復しており、東京まで約1時間20分、韓国ソウルまで約1時間40分で結んでいる。

港湾としての境港は戦前より日本海国内航路の要衝、対岸貿易港として繁栄し、昭和26年に重要港湾に、平成22年に重点港湾に指定された。平成元年に初の定期コンテナ航路が就航し、平成7年に輸入促進地域計画（境港FAZ計画）が国から承認され、同年、中国航路・釜山航路が相次いで就航し、現在、日本海側の国際貿易の拠点港として各種施設整備が行われている。モノとヒトが交流する「北東アジアゲートウェイ」構想を掲げる中、平成21年には境港・韓国東岸の東海（トンヘ）港・ロシアのウラジオストク港を結ぶDBSクルーズフェリーが就航し、拡大するコンテナ航路と合わせて北東アジア地域や東南アジア諸国への貨物ルートが着々と構築されている。



JR境線―境港駅を出発する妖怪列車



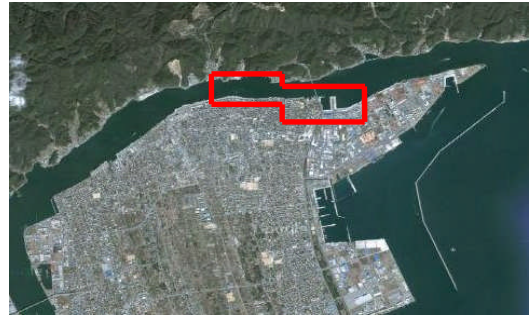
境水道を航行するDBSクルーズフェリー

## 2 境漁港と県営市場

### (1) 境漁港

境漁港は境港市の北端に位置し、その北側に位置する島根半島が天然の防波堤の役割を果たし、古くから良港として利用されてきた。

日本海の豊富な水産資源に恵まれた境漁港は、大正年間になってまき網漁業の発達とともに漁港整備が始まり、昭和30年の第2次漁港整備長期計画から本格的に進められ、平成6年の第9次漁港整備長期計画以降、大型漁船に対応した係留施設等の整備がなされた。昭和28年に第3種漁港、昭和48年には特定第3種漁港に指定され、日本海側有数の漁港に躍進し、現在では日本海における沖合漁業の中核基地としての役割を果たしている。



### 漁港



### (2) 鳥取県営境港水産物地方卸売市場

鳥取県営境港水産物地方卸売市場は、昭和26年に設置された境町営魚市場（境港市栄町）を前身として、昭和37年9月に鳥取県営境港魚市場として開設、昭和48年に鳥取県営境港水産物地方卸売市場となる。この頃から昭和町（現在の場所）に新しい上屋の建設が始まり、昭和57年には水産事務所が移転して本格稼働となった。当時はマイワシ資源の増大に支えられていたが、マイワシ資源が衰退してからここ数年間回復の兆しは見られていない。そのような状況の中、平成21年に指定管理者制度の導入、平成23年に魚体選別機（フィッシュセクター）の整備により、市場運営の効率化及び収益改善に取り組んでいる。

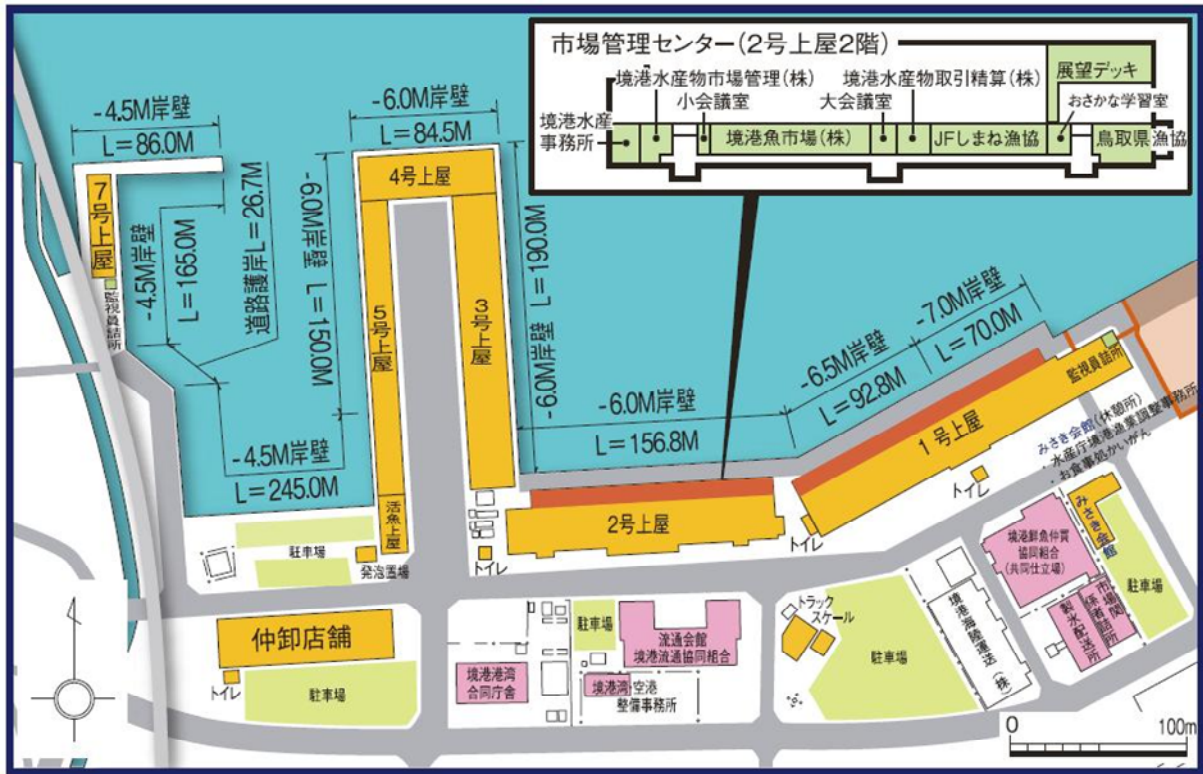


鳥取県営境港水産物地方卸売市場



平成23年度に整備された魚体選別機

鳥取県境港水産物地方卸売市場



開設者

鳥取県(昭和37年9月15日開設)

管理

- 鳥取県境港水産事務所(12名) 平成24年4月1日現在
  - 所長(1) 一次長兼管理担当(1)
    - 境港水産振興担当(3)
    - 取締船(6)
    - 非常勤職員(1)
- 境港水産物市場管理(株)(11名)
  - 社長(1) 専務(1)
    - 業務担当(1) 設備担当(1)
    - 事務担当(1) 監視員(6)

卸売人

3社 境港魚市場株式会社 鳥取県漁業協同組合  
漁業協同組合JFしまね

売買参加者

業種別等内訳 平成24年2月末現在

区分 所在地	個人					法人					合計
	出荷	仲卸	加工	小売	小計	出荷	仲卸	加工	小売	小計	
境港市			1	12	13	8	10	27	14	59	72
米子市				1	1			2	3	5	6
その他						2		3		5	5
合計			1	13	14	10	10	32	17	69	83

市場施設の規模

(平成24年2月末現在)

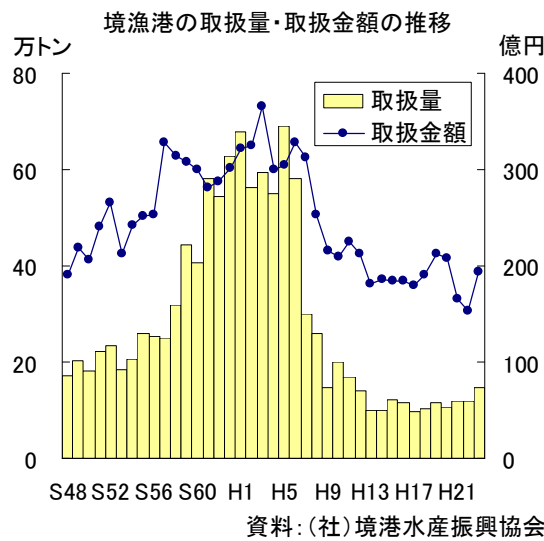
名称	位置	建設年次	構造	上屋面積 (㎡)	規模 (全長×幅)
1号上屋	昭和町	昭和59 ~60年	鉄筋2階建 (一部)	4,797	200m ×23m
1号上屋 防風防暑	昭和町	平成16年	PC・PCa造 平屋建	1,482	156m ×9.5m
2号上屋	昭和町	昭和55 ~56年	鉄筋2階建	3,629	152.2m ×23m
2号上屋 防風防暑	昭和町	平成17年	PC・PCa造 平屋建	1,311	143.8m ×9.1m
3号上屋	昭和町	昭和48 ~51年 (平成13年 一部修復)	鉄骨平屋建	3,772	164m ×23m
4号上屋	昭和町	平成13年	鉄骨平屋建	1,633	71m ×23m
5号上屋	昭和町	昭和51 ~52年 (平成13年 一部修復)	鉄骨平屋建	1,804	164m ×11m
7号上屋	岬町	平成7 ~8年	鉄骨平屋建	756	54.42m ×13.9m
活魚上屋	昭和町	昭和63年	鉄骨平屋建	429	33m ×13m
小計				19,613	
外港	昭和町	昭和52年	鉄骨平屋建	4,329	補 3218㎡
合計				23,942	

### 3 境港の水産業

#### (1) 水揚量の推移

境漁港における水産物取扱量は、マイワシ資源の増加により昭和 61 年から平成 6 年まで 9 年連続で 50 万トン以上を記録し、平成 4 年から平成 8 年までの 5 年間は全国 1 位であったが、その後、急激に減少し、長期的な資源変動の低迷期に入った。

現在、境漁港を基地とする漁業は、まき網漁業、ベニズワイガニにかご漁業、沖合底びき網漁業、いか釣り漁業等の沖合漁業を中心として、平成 24 年の水産物取扱量は重量 114,258 t（全国 6 位）、金額 16,262 百万円（全国 11 位）となっている。



#### 全国主要漁港水揚状況

	数量(単位:トン)		金額(単位:億円)	
	平成24年	平成23年	平成24年	平成23年
1	銚子 229,658	1 225,619	1 福岡 449.5	1 479.4
2	焼津 167,081	2 182,698	2 焼津 422.5	2 418.7
3	松浦 134,565	4 143,920	3 長崎 319.5	3 323.3
4	根室 123,407	6 124,557	4 銚子 255.4	5 250.2
5	長崎 121,873	5 129,532	5 根室 244.4	4 279.0
6	<b>境 114,258</b>	3 <b>147,948</b>	6 三崎 221.0	6 235.6
7	八戸 112,395	7 121,510	7 松浦 192.1	7 226.5
8	釧路 110,234	8 119,642	8 八戸 186.7	8 210.4
9	枕崎 101,366	9 94,829	9 下関 175.2	10 182.6
10	福岡 84,737	10 93,279	10 函館 166.5	11 182.3
11	気仙沼 57,677	19 28,099	11 <b>境 162.6</b>	9 <b>194.5</b>
12	石巻 54,158	14 38,672	12 枕崎 155.6	13 118.1
13	女川 44,145	25 19,739	13 気仙沼 143.0	18 85.3
14	大船渡 44,102	21 27,936	14 塩竈 141.4	14 104.3
15	沼津 41,698	11 49,963	15 沼津 138.8	12 150.3

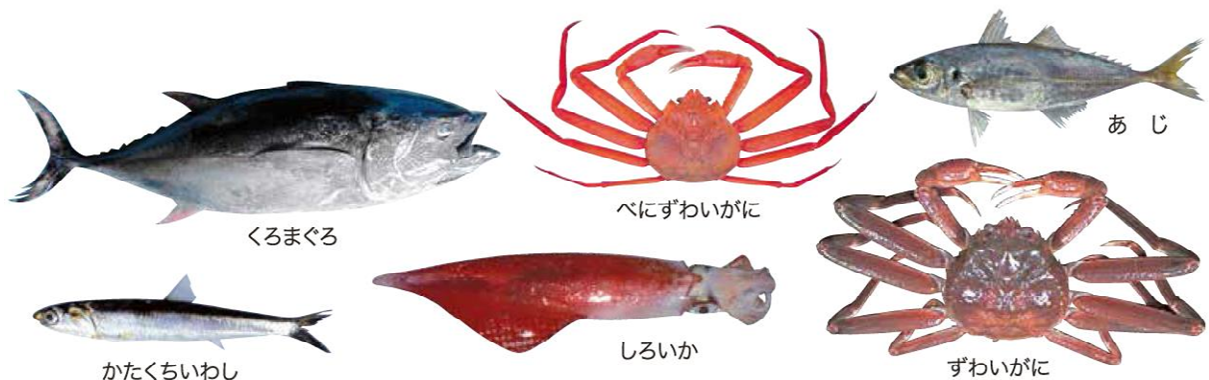
資料：(社)漁業情報サービスセンター

#### (2) 魚種別・漁業種類別水揚量

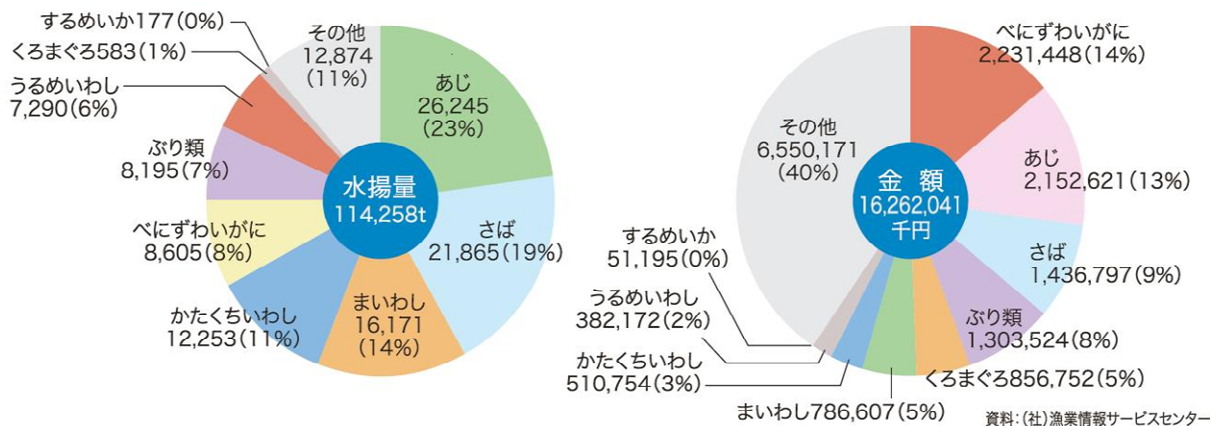
魚種別には、まき網漁業によるアジ・サバ・イワシ類、ベニズワイガニにかご漁業によるベニズワイガニが漁獲の多くを占めているが、各種沿岸漁業も含め、春にはサヨリ、メバル、カレイ類、夏には本まぐろ（クロマグロ）、白いかに（ケンサキイカ）、スズキ、イワガキ、秋にはハタハタ、シラス（イワシ類稚魚）、サワラ、冬には山陰の冬の味覚の王様である松葉がに（ズワイガニ）、ブリ、スルメイカ等、四季折々、多種多様な水産物の水揚げがなされている。

特に、夏の天然本まぐろ（クロマグロ）、禁漁期を除く 9 月から翌年 6 月まで 10 ヶ月間水揚げされるベニズワイガニは、長年、水揚量日本一を記録している。

#### 境港を代表する水産物



魚種別水揚量・金額(平成24年)



	まき網	いかつり	べにずわいがに	沖合底びき網	活魚	輸入魚(べにずわいがに)	その他	計
取扱量(トン)	94,870	432	8,605	3,262	85	0	7,004	114,258
取扱額(千円)	7,897,168	245,105	2,231,448	2,477,377	59,329	0	3,351,613	16,262,041

資料: (社)漁業情報サービスセンター  
境港水産事務所調べ

(3) 加工流通

境漁港が水産都市として急成長した背景には加工から流通に至る一貫した機能と設備が整備されたことにある。

境漁港はかねてより「関西の台所」として関西圏への水産物の供給に大きな役割を果たしてきたほか、関東への出荷も増やしてきた。水産庁が推進する拠点的な役割を担う主要漁港の整備と強化を図る水産物産地流通加工センター形成事業の第1期として昭和44年に水産庁の指定を受け、昭和工業団地内に加工団地が形成され、各加工業の設備近代化や増大する水揚げに対応した工場の拡大、加工排水の共同処理施設等が整備された。

境港の水産加工業は、冷凍食品、冷凍水産物等2～3種類の品目を組み合わせた複合型加工の生産体制が中心で、冷凍水産物やベニズワイガニ、アジ、サバ等を使った冷凍食品が加工製品の主体となっているが、昔ながらの素干、煮干を専業としている企業もある。

近年、境港で漁獲される未利用魚や未利用部位の食品加工への利用や機能性食品開発等の新技術開発が産学一体となって取り組まれたり、また、平成21年度からはじまった「みんなで選ぶ境港の水産加工大賞」は、地元の水産加工品の周知と地域発のブランド化を目的として開催され、境港の様々な水産加工品の積極的な情報発信の場となり、水産加工業振興策の一端を担っている。

境港市の水産製造関係工業出荷額(平成22年)

品目	事業所数	従業者数	出荷額(万円)
海藻加工品	3	219	409,125
練製品	3	41	46,002
塩干・塩蔵品	3	64	49,519
冷凍水産物	3	150	479,026
冷凍水産食品	13	684	1,780,003
その他の水産食料品	12	208	180,529
計	37	1,366	2,944,204

(平成22年工業統計調査・従業者4人以上の事業所対象)



第四回みんなで選ぶ境港の水産加工大賞  
大賞:「昆布じめ丼の素白はた」(有)山芳海産

(4) 養殖業

宮城県女川町の三陸海岸のギンザケ養殖場が東日本大震災で被災したため、かつてサケの養殖が行われていた美保湾での事業化の可能性を検討しようと、水産大手の日本水産株式会社の子会社である臨海研究株式会社境港事業所が鳥取県と境港市の財政支援を受けて平成23年12月から取り組んでいる。



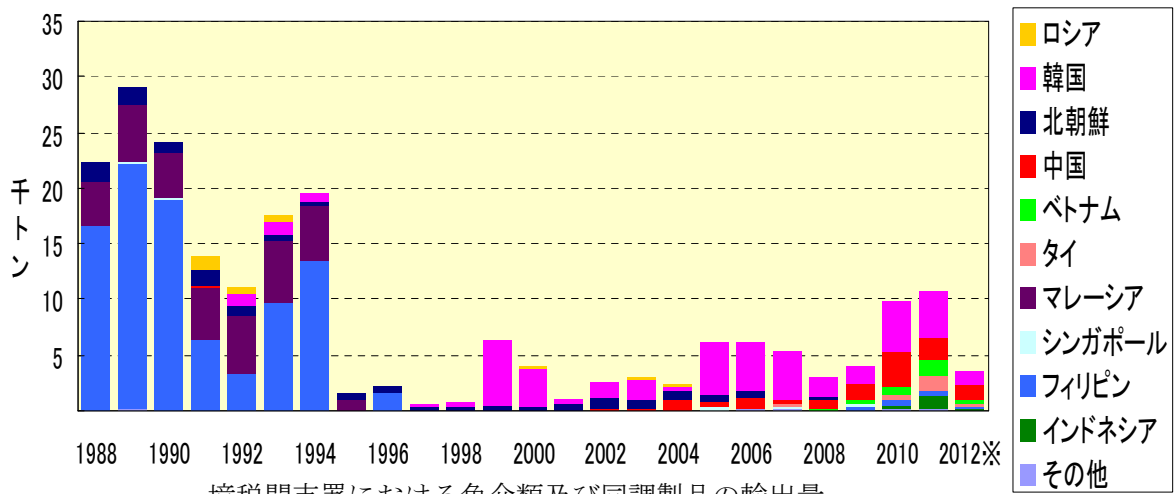
海面養殖実用化試験（2年目）の概要【H24.12月】	
養殖尾数：	35万尾（前年7.2万尾）
平均体重：	250g（前年200g）
平均全長：	27cm（前年25cm）
出荷量：	700トン見込（前年112トン）
施設	生簀10基、給餌機4基、船5隻
出荷予定：	H25年3月中旬～5月下旬 （前年：H24年4月下旬～5月下旬）



(5) 水産物の輸出

境港における水産物輸出は、かつては冷凍イワシを中心にフィリピン、マレーシア等へ年間約1～3万トン輸出されていたが、マイワシ資源の衰退により輸出量は大きく減少した。

近年は冷凍魚（カタクチイワシ、サバ、ツバス等）を中心に韓国、中国、ベトナム等への輸出がなされている。



境税関支署における魚介類及び同調製品の輸出量

(財務省貿易統計 ※2012年11月末集計)